

Fuji® 参考ガイドスペック

2023年度版

たとえロッドの長さは同じでも、ガイドスペックはブランクの特性やアングラの体力、個性などによって決まるもので、一概に決定的なものはありません。ここに紹介するのは、ロッドの長さから見た推奨ガイドと標準的ガイド位置の参考例です。異なるニーズにお応えできるよう、Fujiのガイド取り付け理論は2つあります。あなたのロッドに合ったガイドを探すための目安と捉えてください。

取り付け位置の決め方ヒント

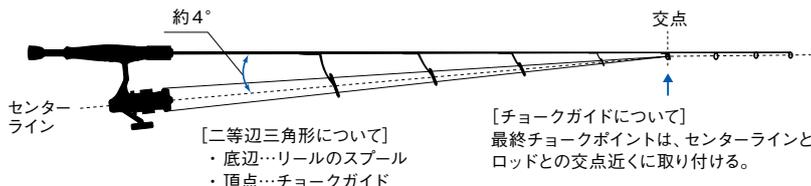
スピニング編 - 1

New Guide Concept

ニューガイドコンセプトの場合、ラインは、リールのスプールから螺旋を描きながら二等辺三角形形状に繰り出されますが、スピニングリールのセンターラインは、ロッドに向かって約4°の傾斜があるため、ラインはやがてロッドと交差します。ニューガイドコンセプト「スピニング編」のチョークガイドは、その交点の近くに取り付けます。

ナイロンライン、フロロカーボンライン使用の場合

まずラインとロッドの交点の近くに、螺旋を絞るためのチョークガイドを設定します。交点よりリール側は、二等辺三角形に合ったリングサイズのガイドを適正な位置に。交点よりティップ側には、感度低下やライントラブル減少のため、ライン抵抗を増やさない範囲で、できるだけ軽く小さなガイドをそれぞれ取り付けます。



PEライン使用の場合

細くても強い…同号数のナイロン・フロロと比べて数倍の強度を持つPEは、ラインにおける太さと強さの関係に一大変化をもたらしました。そして細い・軽い・しなやかという三大特性により、PEはガイド通過時の抵抗が同号数のナイロン・フロロよりも小さくなるため、PEをキャストする場合、ロッドによってはナイロン・フロロ使用時よりもガイドをリールに近づけられる可能性があります。ガイドをリールに近づけて得られるバットパワー効果には、まず飛距離アップが上げられますが、それが期待できそうなロッドはこの2種です。

- ① 軽すぎない、一定の重量物を投げるロッド
- ② キャスト時にバット部がよく曲がり、しかも反発力のあるロッド

PE使用にあたり、ガイドを従来よりリールに近づける場合

いきなり総ガイド数は増やさず、まずは従来の個数で間隔調整し、どうしても足りない場合、最も軽いティップ部に追加するようにしてください。※同号数のナイロン・フロロよりガイド抵抗が小さいとはいえ、通過するガイド数が増えれば抵抗は増すため、ガイドを手前に移動させると、ロッドによっては曲がりのバランスが崩れて「ロッド折れ」を誘発する危険があるため、いきなり大幅には動かさず、必ず少しずつ移動させること。ロッドによっては、必ずしも飛距離が伸びるとは限らず、かえって低下する場合があります。このような点に十分注意し、ガイド位置の決定前には必ず仮止めとキャストテストをし、あくまで自己責任において慎重に行ってください。

スピニング編 - 2

K・R Concept

K・Rコンセプト「スピニング編」は、キャストされたラインの螺旋を、複数のチョークガイドによって速やかに、かつスムーズに収束させ、いち早く直線化させます。

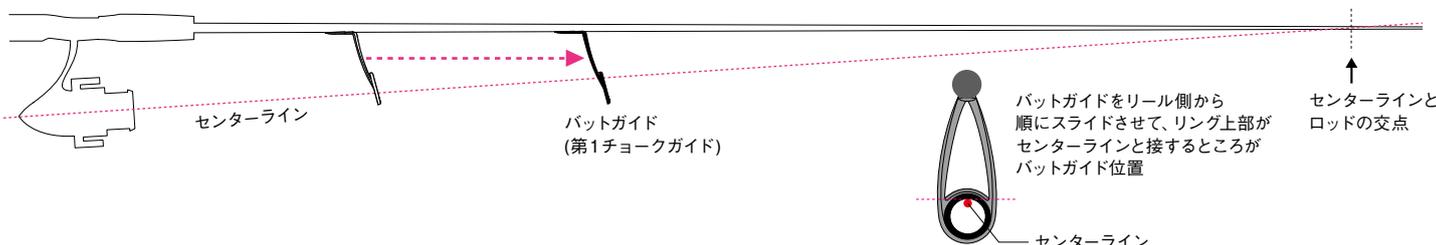
ガイド位置決定にあたっては、ラインの入射角度が急なため、「スピニング編-1」の二等辺三角形理論をそのまま用いることができません。つぎに①から⑤の手順を示しましたが、最も重要なバットガイド(第1チョークガイド)とベリーガイドの位置決めには非常にデリケートな要素が多く、ロッドの長さやテーバーによっても変化しますので、あわせて後述の参考寸法を参照ください。



Kガイド
Tangle Free

①バットガイド(第1チョークガイド)の位置を決める

「K・Rコンセプト」のバットガイドは、ラインスラップを避けるための超ハイフレーム型で、リング位置が従来バットガイドよりも高いため、取り付け位置の決め方が「ニューガイドコンセプト」と異なります。はじめに、なるべくライン抵抗を抑えることを念頭に使用ガイドとガイド総数を決めます。つぎに、リールのセンターラインを真っ直ぐ伸ばしてロッドと交点を作ります。バットガイドをロッドにあて、リール側からティップに向かってゆっくりスライドさせていき、やがてバットガイドのリング上部がセンターラインと接したら、その地点をバットガイドの位置とします。バットガイドの位置がリールに近すぎると、飛距離低下やキャスト絡みが発生する場合があります。逆にバットガイドの位置がリールから離れすぎると、キャストコントロールやロッドパワー、フッキングパワーが低下する場合があります。



② ベリーガイドの位置を仮決める

トップガイドを仮装着したら、バットガイド ~ トップガイド間のおおよそ中間にベリーガイドの位置を仮決めます。

③ 第2・第3チョークガイドの位置を決める

第1チョークガイドのリング中央とベリーガイドのリング中央を結ぶ直線上に、第2チョークガイドと第3チョークガイドをバランスよく配置します。

※ただし、その直線が必ずしも第2・第3チョークガイドそれぞれのリング中央にも該当するとは限りません。

急速すぎるチョークは、飛距離低下やキャスト絡みの原因になるため、使用するルアーやライン、ロッドアクションに合わせて具合よくラインチョークできるガイドのセレクトとレイアウトが重要です。

④ ティップガイドの位置を決める

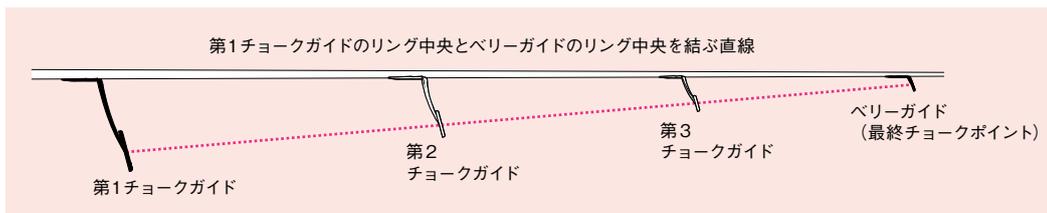
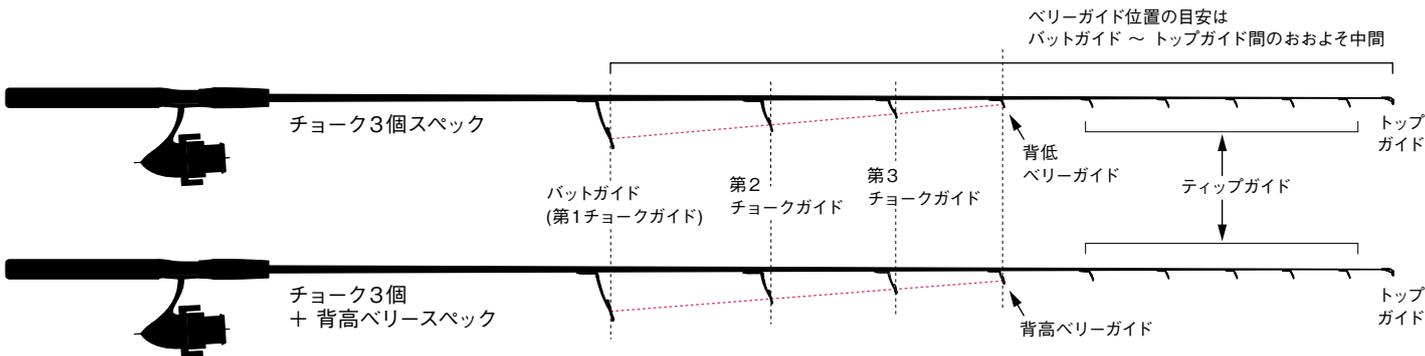
使用するルアーやライン、ロッドアクションを考慮してティップガイドのリングサイズを決めます。

ベリーガイドからトップガイドに向かい、だんだん間隔が狭くなるように各ティップガイドの位置を決めていきます。

⑤ ガイド全体のバランスを整える

すべてのガイド位置がいったん決まったところで、ロッドの曲がりやライン角度をチェックし、それが不自然であればベリーガイドの位置を動かします。

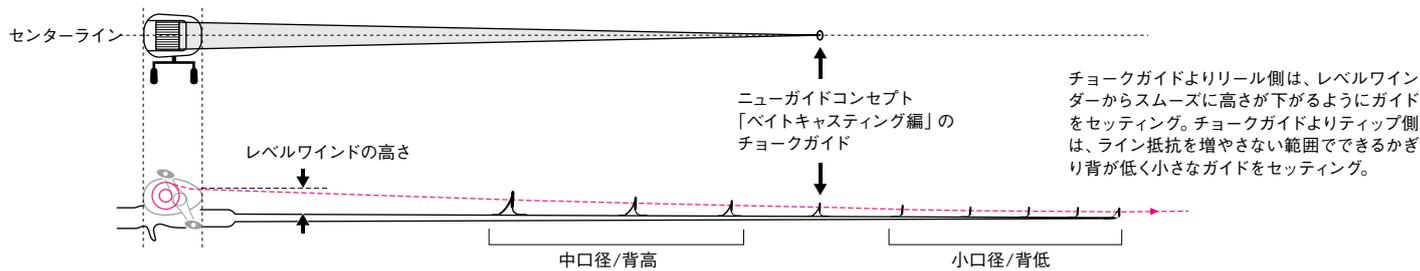
ベリーガイドを動かした場合、それに合わせて第2・第3チョークガイド、ティップガイドの位置も再修正します。



※K・Rコンセプトはティップガイドとトップガイドが同一リングサイズです。

ベイトキャスティング編 - 1 New Guide Concept

スプールからレベルwindを通過して繰り出されたラインは、この二等辺三角形の頂点でチョークします。



本文の見方と TORZITEダウンサイジング スペックについて

SiCリングスペックのサイズ12以下を1サイズ小さいTORZITEに置き換えるダウンサイジングスペック例

ガイド：計8個
竿：5フィート/6インチ



| | | | | | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|---|----------|
| TORZITE装着ガイドを示す | ・ TORZITE | KL25H | KL12H | KL5.5M | KB4.5 | KT4.5 | KG4.5F | ↓ | ダウンサイジング |
| SiCリング装着ガイドを示す | ・ SiC | KL25H | KL12H | KL5.5M | KB5 | KT5 | LG5 | | |

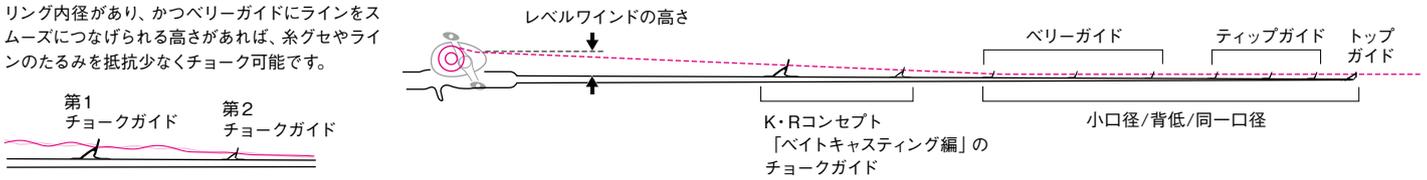


キャスト時にスプールから放出されるラインは、スピニングリールが螺旋状なのに対し、ベイトキャスティングリールは直線状。この直線状のラインを2つのチョークガイドによって速やかにスムーズに収束させるバットガイド(第1チョークガイド)には、ラインをレベルwindから第2チョークガイドへスムーズにリレーできる高さが必要です。

つぎに①～⑤の手順を示しましたが、最も重要な2つのチョークガイドとベリーガイドの位置決めにはデリケートな要素が多く、ロッドの長さやテーパーによっても変化しますので、あわせて本文の参考寸法を参照ください。

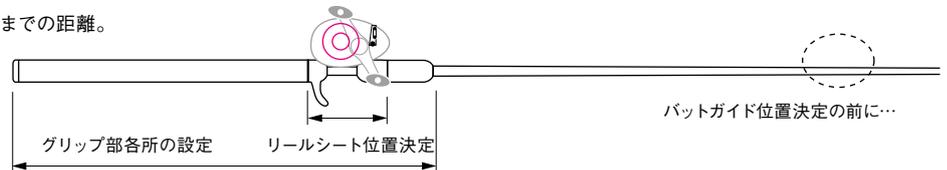
レベルwindからベリーガイドまでスムーズに高さが下がることが基本

チョークガイドには、レベルwindと同等以上のリング内径があり、かつベリーガイドにラインをスムーズにつなげられる高さがあれば、糸グセやラインのたるみを抵抗少なくチョーク可能です。



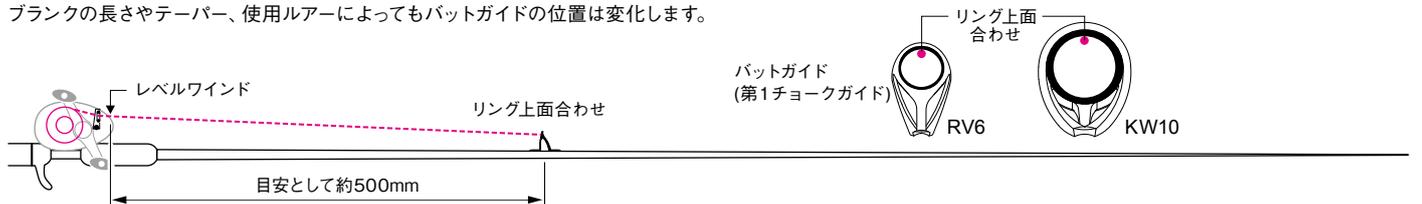
① グリップ部の長さとしールシートの位置を決める

最重要は、リールからバットガイド(第1チョークガイド)までの距離。そのため、はじめにリールシートの位置など、グリップ部の各所を設定します。



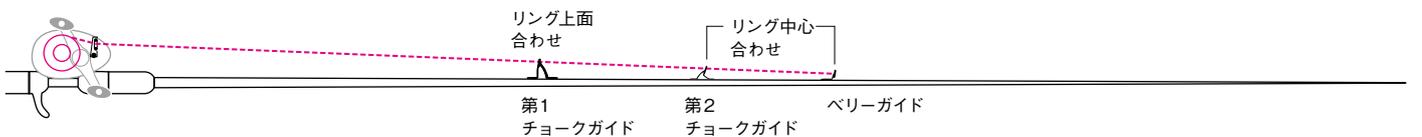
② レベルwind ~ バットガイドのリング上面を直線で結ぶ

レベルwindから真っ直ぐ伸ばしたラインが「リング上面」に接する位置にバットガイドを仮決めます。目安として、その位置はレベルwindから約500mm先ですが、ブランクの長さやテーパー、使用ルアーによってもバットガイドの位置は変化します。



③ 第2チョークガイドとベリーガイドを仮決める

レベルwindからバットガイドのリング上面に接したラインを、角度そのままにさらに真っ直ぐ伸ばした先に第2チョークガイドとベリーガイド(一番手前)を「リング中心」合わせて仮決めます。



④ 残りのベリーガイドとティップガイドを仮決める。

ロッドアクションを考慮してティップガイドのリングサイズを決めます。ベリーガイドからトップガイドに向かい、だんだん間隔が狭くなるように各ティップガイドの位置を原則「リング中心」合わせて仮決めます。



⑤ ガイド全体のバランスを整える

すべてのガイド位置を決めたら、実際にガイドにラインを通し、ブランクの曲がり具合やラインの様子などをチェックします。重要ポイントはこの2つです。

- ① ガイド間隔が不自然でないか?
- ② しならせたとき、ラインがブランクに触れていないか?

ラインがブランクに触れる場合は、ガイド間隔を少しずつ修正してまたテストしてください。それでもラインがブランクに触れてしまう場合は、ティップガイドの数を増やしてください。